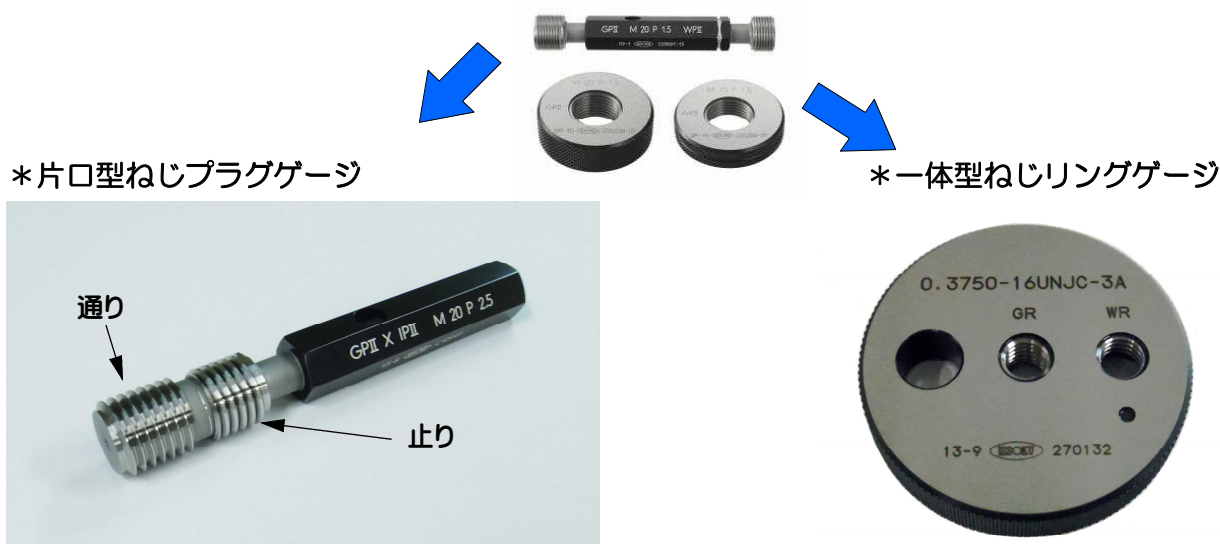


ねじのゲージを通り、止りで毎回向きを変えて持ち直すのが面倒！



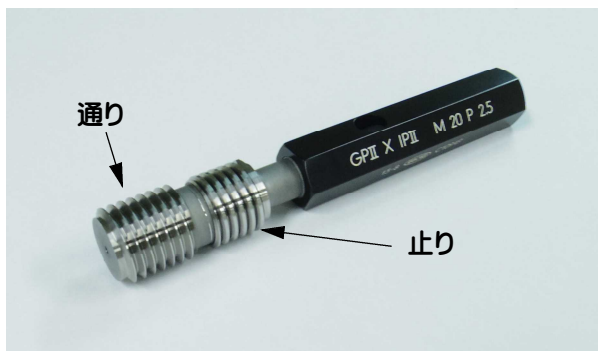
- ★ねじゲージは一般的に通り、止りが1本のハンドルの両側に取り付けてあるか、通り、止りを別々のハンドルに取り付けてあります。
- ★いずれの場合も通り側が入ったら、通り側を抜き、持ち替えたり、向きを変えたりして止り側の検査をすることになり、時間がかかってしまいます。
- ★検査数量や頻度が多い場合は、時間がかかるだけでなく、測定者の負担にもなっています。

検査工数を削減する一体型ねじゲージ



*片口型ねじプラグゲージ

*一体型ねじリングゲージ



- ★プラグゲージは、通り側ねじゲージの後ろに止り側ねじゲージを一体で取り付けたゲージです。同じ向きで、ゲージまたはワークの持ち替えなしで一度に検査できます。
- ★リングゲージは、1つのリングに通り側ねじゲージと、止り側のねじゲージを加工しており、こちらもゲージの持ち替えなしで簡単に検査できます。特にボルトのようにワークを回して検査するものは有効です。

使用事例:こんなに時間短縮ができます。

★検査時間の比較

区分	導入前 (両口型または別体型)	導入後 (片口型または一体型)
ねじプラグゲージ	20~30秒	15~20秒
ねじリングゲージ	30~40秒	25~30秒

※検査時間には個人差があります。

